

登録コード	L1330600	開講年度	2026				
担当教員	木村 宏人			副担当			
授業科目	文化情報論特論						
英文授業名	Cultural Informatics: Special Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			社会調査法の知識を用いて、身の回りの社会調査の実施過程を批判的に吟味できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会調査を適切に設計する方法を理解できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			社会調査を適切に実施する方法を理解できるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会調査のなかでも、おもに量的調査（調査票調査）について、なぜ調査の設計と実施方法が重要なのか、そして実際にどのように設計・実施するのかについて学習する。						
授業計画	1 ガイダンス、社会調査と私たちのかわり 2 社会調査の定義 3 量的調査の位置づけと全体像 4 問いと仮説、変数と値 5 因果関係の考え方 6 実験と調査 7 理論と経験 8 読書課題解説（3章まで） 9 読書課題解説（4章以降） 10 標本調査、調査類型 11 実査のモード 12 調査票の作成 13 サンプリング 14 データの入力と点検 15 既存調査資料の探し方と読み方、確認試験、授業アンケート						
成績評価の方法	毎回の課題（10％）、読書課題（30％）、確認試験（60％）を合計して評価する。						
成績評価の基準	卓越している（90％以上）：量的な社会調査の設計と実施の重要性と、その実行方法について体系的な説明ができ、かつ既存の調査を批判的に吟味できる。 かなり上にある（80％以上90％未満）：量的な社会調査の設計と実施の重要性と、その実行方法について体系的な説明ができる。 やや上にある（70％以上80％未満）：量的な社会調査の設計と実施の重要性と、その実行方法について基本的な説明ができる。 合格水準にある（60％以上70％未満）：量的な社会調査の設計と実施の重要性を理解し、説明できる。						
事前事後学習の内容	教科書の熟読、課題への取り組み、用語の定着、知識の応用						
履修上の注意	なし						
質問、相談への対応	授業前後にお願いします。時間を要するものは別途対応しますので、事前にメールで連絡してください（メールアドレスは初回授業時に示します）。						
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編、2026、『入門・社会調査法〔第5版〕』法律文化社・高根正昭、1979、『創造の方法学』講談社。						
参考書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、2023、『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房・松本 渉、2021、『社会調査の方法論』丸善出版。						